

社会主義は理想なのか
～「共産党宣言」に学ぶ

第5回

関東ブロック

社会を変えろる根本法則をつかむ

命より大切な仕事はありません

「社員の命を犠牲にして業績をあげる企業が、日本の発展をリードする優良企業と言えるでしょうか。命より大切な仕事はありません、電通の新人社員で、2015年に過労自殺した高橋まつりさんのお母さんの涙の訴えです。

「私は昨年、正月三ガ日しか休めませんでした。バスケットボールの顧問をしているので1年間土日はありません」32歳の中学校先生の言葉です。

働きすぎを防止するために発足した

「働き方改革実現会議」は、時間外労働の上限について原案を示しました。しかし肝心の繁忙期の1カ月の上限は過労死ライン80時間を超えて月100時間未満と経団連と連合は合意するなど、お母さんの訴えを全く無視し、反省の色など微塵もない内容です。このように労働者が使い捨てにされる実態をどうしたらいいのでしょうか、解決する方法はあるのでしょうか。『共産党宣言』はその解決のヒントを与えてくれます。今まで学習してきた第1章は、マルクスとエンゲルスが当時の資本主義社会の発展についての認識と、

資本主義から社会主義への移行の必然性について書かれています。『宣言』の中でも最も重要なところですので一度おさらいしてみましょう。

人類はどう発展してきたのか

第1章は、「これまであらゆる社会の歴史は階級闘争の歴史である」という衝撃的な言葉で始まります。

マルクスは『宣言』を書く前に、社会の発展法則「唯物史観」を完成していました。人類の歴史は、原始共産制社会、古代奴隷制社会、封建制社会、

◆みんなの学習講座



資本主義社会と発展してきました。原始共産制社会では階級はありませんでしたが、その共同体は生産力の発展に従って、持つ者と持たざる者への相対立する諸階級・諸階層へ分裂し、共同体は解体していきます。そして階級社会の奴隷制、封建制、資本主義へと社会は変化していきます。その社会発展の原動力は生産力と生産関係の矛盾である、ということです。

生産力と生産関係

人間は道具を使う社会的動物であると言われています。人間は大昔から道具を使って自然に働きかけ、生きるためにコメなどの食料を生産してきました。このものを作る過程の三つの要素、人間の労働する力を「労働力」、人間が働きかける相手、大昔はほとんど自然が相手でしたが現在ではすでに加工されている物（原料）もあります。その自然や原料を「労働対象」、労働するときを使う道具や機械を「労働手段」と言います。

生産力とは、生産手段（労働手段＋労働対象）と労働力が結合して「もの」をつくり出す力のことを言います。そして、この生産の過程で人間が相互に取り結ぶ社会的関係を「生産関係」といいます。それは生産のみでなく分配され、別の生産物と交換され、消費されるのです。この全経済過程、生

産・分配・交換・消費という過程が人間の諸関係を規定します。

上の図はチャップリンの『モダンタイムス』の一場面ですが、チャップリン（労働者）は毎日毎日オートメーションで流れてくる材料（労働対象）にスパナ（労働手段）でねじ止めの仕事を（労働力）をして月20万円の賃金を得ています。彼はその賃金で他の労働者が作り出した衣食住の資料を購入し、着る、寝る、食べるなど明日の労働力の再生産をします。

このような過程が全社会的に行われてその社会の経済活動が成り立っています。そして、生産関係はなによりも生産手段の所有関係が重要となります。今日の資本主義社会では、生産手段を私有する資本家は労働者を雇い商品の生産を行います。労働者は賃金を受け取り、資本家は商品売ってもうけ（剰余価値）を得ます。このような資本家と労働者の結びつきで生産が行わ

れることが、資本主義的な生産関係で
す。

土台が変われば社会も変わる

この生産諸関係総体は社会の経済構
造であり、その社会の土台となつて、
その上に法律的、政治的、文化的上部
構造がそびえ立ちます。よつて土台で
ある経済構造が変われば上に建てられ
る全社会構造も変わらざるを得ません。
なぜ、土台（経済構造）は変わるの
でしょうか。それは、生産力と生産関
係の矛盾によつて発生します。ある社
会の生産関係は、はじめは生産力にふ
さわしいものですが、生産力が発展し
てゆくとその社会の生産関係は窮屈な
ものとなり、生産力の発展とぶつかり
合うようになります。そして、この生
産力と生産関係の矛盾は、支配階級と
被支配階級との階級闘争に発展し、被
支配階級が革命により国家権力を掌握

することに古い生産関係を一掃し、
新しい生産関係の新しい社会をつくり
出すのです。例えば封建社会から資本
主義社会への移り変わりを見てみま
しよ。ブルジョアジーは封建社会の中
で発生し、大航海時代のアメリカ大陸
発見などにより、世界市場を創り出し、
ギルドの親方と職人という生産から、
マニユファクチュア（工場手工業）へ
発展。そうなるど領主、貴族、農奴と
いう生産関係では対応できなくなりま
す。ブルジョアジーは自分たちの生産
の足かせとなつた封建制度を打倒して
自分たちの国家をつくります。これが
ブルジョア革命であり、新しい資本主
義社会がつくられます。そこから近代
的大工業が生まれ大量生産と大量消費
が行われるようになります。

その資本主義社会も、ますます生産
力が発展すると資本主義の業病といわ
れる恐慌が発生します。一方労働者は
ますます増加し、団結し、労働組合を

作り、階級闘争は激しくなります。資
本主義の生産力の発展は目覚ましく、
生産用具の絶えまない改良に継ぐ改良
で生産力をどんどん飛躍的に高めてい
きました。『宣言』の時代から170
年経つた現在はどうでしょうか。マル
クスも驚くほどの生産力の発展とグロ
ーバル化が進んでいます。一方でマル
クスの言う通り、「一方の極（ブルジ
ョア階級）における富の蓄積は、同時
に、その対極における階級（プロレタ
リア階級）における、貧困、労働苦、
奴隷状態、無知、野蠻化、および道徳
的墮落の蓄積である」という格差の拡大
は世界中に広がっています。世界で
最も裕福な所得上位8人の総資産は4
260億ドル、およそ48兆5000
億円にのぼり、所得の少ない世界の人
口の半数にあたる36億人の総資産と
ほぼ同じだということです。

このように、資本主義的生産は、労働者
を搾取して剰余価値を得るとい



大恐慌で家を失った家族

古い生産関係では適合しなくなり、
二大階級化された階級闘争は、搾取す
る階級を搾取される階級が打ち破り、
古い生産関係に代わる新しい生産関係
が要求されます。これを導くのが社会
主義革命です。

ブルジョアと

プロレタリアの役割

さて、3月号ではブルジョア階級の
歴史的役割について学習してきました。
本文では「ブルジョア階級は、歴史に

おいて、きわめて革命的な役割を演じ
た」と述べています。その役割とは、
①旧秩序の破壊。②経済恐慌。③「自
分自身の生産手段をもたないで、生活
するためにその労働力を売ることを余
儀なくされている近代的賃金労働者の
階級」プロレタリア階級を生み出しま
した。

プロレタリア階級の発生については
4月号に詳しく述べられています。肝
心なのは、どのような歴史的経過から
プロレタリアが団結し、階級としての
大きな集団になっていくのかです。労
働者の持っている労働力は商品であつ
て市場で揺れ動きながら賃金は減少し
生きていくのにぎりぎりの賃金で生活
しなければなりません。また、商工業
者や農民などあらゆる階級から補充さ
れプロレタリア階級の人口は増えてい
きます。そして、同盟し団結し、時に
は暴動をおこしますが、「時々労働者
が勝つことがあるが、ほんの一次的に

すぎない。彼らの闘争の本来の成果は、
その直接の成功ではなくて、労働者の
団結がますます広がっていくことであ
る」と、プロレタリア階級の成長を描
いています。

こうして、プロレタリアは階級に発
展し、政党に組織され常にくりかえし
破壊されるがそのたびに復活し強化さ
れます。プロレタリアは無所有であり、
社会主義革命における労働者階級の指
導的役割を、「現在ブルジョアジーに
対立しているすべての階級のうちに、
プロレタリアートのみがほんとうに革
命的な階級である」と指摘しています。

そして労働者階級のたたかいが階級
対立そのものを廃止するという世界史
的役割をもっていることや、まずは各
国で自国の革命を達成しなければなら
ないことを明らかにしています。そし
て、ブルジョア階級は、その大工業の
発展と共に「彼ら自身の墓堀人」を生
産し、ブルジョアの没落とプロレタリ

アの勝利はともに不可避であるという結論に達するのです。

なぜ「支配する能力を持たない」 のに資本主義は存続するのか

エンゲルスは唯物史観について、「人間社会にも自然と同様に客観的な法則が存在し、人間の歴史がみずからを動かし発展させてゆくあの根本法則を発見したのはマルクスである」と述べています。



全労協メーデー (2011年)

その法則に基づいて今日の社会を見ても、**「二大階級の闘争」**であり、「ブルジョア階級は世界市場を通じあらゆる国々の生産と消費を全世界的なもの」にし、「労働者は工業の進歩と共に向上するのではなく貧窮者」となり、「恐慌を予防する手段を「層少なく」、富めるものと貧しいものの格差は拡大し、先進資本主義国への富の集中と発展途上国の貧困化など、今日のブルジョア階級は、「支配する能力を持たない」ことは明らかになってきています。

しかし、資本主義はいかに矛盾が拡大しても自動崩壊はしないのです。プロレタリアの階級闘争が発展していきないうのです。この現実から目をそむけず、学習闘争によって革命性を理解し、一つひとつの闘いを階級闘争へと昇華し、「あらゆる階級闘争は政治闘争であり」という言葉のとおり、私たちの周りの労働者の階級性を目覚めさせ、押

し上げ、階級闘争をたたかえる労働運動を作らなければならない時なのです。

階級的ナショナルセンターの 再構築

今まで見てきたように、「社会発展の原動力は、生産力と生産関係の矛盾であり、その矛盾は階級闘争によって解決される」という結論を導いてきました。資本主義は対立する二大階級にわかれ、資本家の支配が労働者に対して共通の地位、共通の利害をつくり出して、この利害を中心に結合した労働者が資本家階級に対しての闘争が始まると書かれています。

しかし、今日の労働運動を見て階級闘争と言えるのでしょうか。2月号で「階級と階級闘争」をテーマに討論していますが、「私は、階級闘争なんて日頃意識したことはない」「階級としての労働者集団が崩壊している」「60

◆みんなの学習講座

年三池・安保闘争、70年代前半の国民春闘にはそれを思わせる闘いがあつた」と意見が出されています。

レーニンは、見事に階級闘争論を述べています。「階級闘争とは何か。・・・個々の労働者が全労働者階級の一員であることを自覚するとき、・・・日常の小さな闘争を、ブルジョアジー全体と政治全体とに対する闘争と考えるようになったとき、そのときはじめて彼の闘争は階級闘争となる」と述べています。今日の課題は、全国の個々の闘争を集約し、資本金階級、政府に対し闘争する階級集団、階級的ナショナルセンターをつくらなければならぬといえます。

資本主義的粕漬をそぎおとす

最後に、もう一つ重要な課題があります。現代社会は、様々なサービス産業の労働者や派遣労働者、パートタイ

マー労働者などが増大しています。職場では正社員、派遣社員、臨時社員、パートタイマーなどに分断され、成果主義賃金の浸透で労働者は低賃金構造の中で競争させられています。

マルクスは唯物史観の中で、「人間の社会的存在が、その意識を規定する」と言っていますが、私たち労働者は資本主義的生産様式の中で生活しており、結果として資本主義体制を肯定する意識、「会社あつての労働者」「貧乏の原因は自分の努力不足」「団結より競争」といった資本主義的粕漬に侵されていると言つてもいいでしょう。

どうしたらいいのでしょうか。この資本主義的粕漬をそぎ落とす学習が欠かせません。2月号の「階級闘争とはなにか」の討論の中で、「職場で、なぜなんだ、おかしいぞと感じた。その後、労働運動に加わり、学習会で『階級』とか『階級闘争』というのを学んで分かつてきた。だから、日頃、職場

でおかしいと思うことを『なぜか、どうしてか』考えて、どう差別・分断しているのか敵の狙いをはつきりさせて、どうすれば仲間と団結して抵抗できるのか学習していくしかないと思う」とYさんは言っています。

今日の労働者階級の主体的弱さは放つておいては何も変わらず、労働者の状態は悪くなるばかりです。長時間労働、過労死が当たり前の社会がつけられてしまいます。冒頭の「命より大切な仕事はありません」という高橋まつりさんのお母さんの涙の訴えに応えることができませぬ。今こそ大衆学習運動を發展させて全国の職場と地域に学習会を組織し、プロレタリア階級の団結を強化し階級闘争に發展させていきましょう。そのためには、この『共産党宣言』の学習は不可欠です。次回から第2章「プロレタリアと共産主義者」に入ります。